

一学期終業式 式辞

本日をもって、74日の、1年生については73日の一学期を終了します。「新しい生活様式」が当たり前となった学校生活の中で、制限がありながらも、生徒の皆さんと先生方の前向きな創意と工夫で、一学期の教育活動を予定通りに実施できたことに心から感謝します。

2年生と3年生の皆さんには、始業式で、相田みつをさんの詩を紹介しました。「しあわせは いつも自分のこころがきめる」という詩です。自分の「心の物さし」で、日常にある幸せを感じ取って欲しいとお伝えしました。皆さん一人ひとりの思いが、昇降口に掲示してある「ハートの木」のコメントにあふれています。一例を紹介すると、2年生Aくんは、「支えてくださる皆さんに、心の底から感謝。ありがとう。」と書いてくれています。当たり前だと思っている仲間の存在が、実は大きな支えであることにあらためて感謝したいものです。3年生高橋くんの家庭の日の標語、「笑い声 聞こえる日々が 宝物」の通り、何気ない日常が宝物と思えるような「心の物さし」をこれからも一人ひとりが持って欲しいと願っています。

希望を胸に中学校へと進学した1年生の皆さんには、入学式で、「可能性の種」の話をしました。覚えていますか。「中学校3年間は、自分の中に眠る可能性の種を見つけ、大事に育てる学びの期間。その種を見つけ

育てるコツは5つの気、「元気・やる気・勇気・本気・根気」で可能性の種は花開く」そう、話しました。5つの気は、一学期中、昇降口の水場のところにずっと掲示してありました。多くの皆さんが、5つの気を意識して、いろんな場面で可能性の種を見つけてくれた一学期であつたら嬉しい限りです。

校長室前には、高中生が頑張る3つのこと、「たすき」を掲示してあります。「助け合い高め合う」「進んで学ぶ」「鍛え合う」それぞれの姿が、例えば、校舎内外で響く高中自慢の「あいさつ」、ICTが「普段使い」されている主体的な授業、そして、市中総体に全力で挑んだ皆さんの「努力の姿」、によく表れていました。ハートの木には、1年Bさんが、「いつも、いっしょにいてくれてありがとう。困ったときにお互い支え合えたね。これからもいろんなことがあるかも知れないけど、いつでも笑顔でいようね。」と書いてくれています。他にも、「わからないことがあったとき、嫌がらず優しく教えてくれてありがとう。いつも親切に教えてくれる私の席の周りの人には感謝しています。」という3年Cさんのメッセージもありました。それぞれのメッセージに「仲間との繋がり」の大切さがにじみ出ています。

繋がり、といえば生徒会活動。4月の生徒会任命式で、「私たちの生徒会は私たちが作る」「より良い生活は自分たちで作る」…「誰かがやってくれる、誰かから何かをしてもらうのではなく、皆さん一人一人が、居心地の良い環

境を、自分たちの手で作っていく」と話しました。その期待に応えるように、3年生の生徒会執行部を中心に、人と人が集えなくても、表情を伝え、思いを繋げようと、リモートでの朝会や集会・壮行式を形づくってくれました。また、地域や世界と繋がる第一歩として、アルミ缶やペットボトルキャップ回収に力を入れて活動を展開してくれました。高中伝統のあいさつは、あいさつ運動でさらに活性化しました。「より良い学校生活は自分たちでつくる」その意欲と意気込みが印象的でした。

さあ、明日から22日間の夏休みが始まります。

「夢へ向け一歩踏み出す 夏休み」

これは3年岡本さんの夏休み生活標語です。以前、渋谷栄一さんの「夢七訓」について話したことがありました。夢七訓を思い起こしながら、小さな夢でいいので、ワクワクする気持ちで着実に実行する、そんな夏休みにしましょう。さあ、あなたは、どのような夢に向かって一歩を踏み出しますか。

結びに、8月19日の二学期の始業式に、全員で元気に再会できることを誓い合い、終業式の式辞とします。